

みんみん

新世紀突入！特大号

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

2001年 1月 1日 Vol. 19



動き出した「みやぎNPOプラザ」

2001年あけましておめでとうございます。

新しい世紀を迎えてなんとなく世界も改まったような気になりますが、果たして現実はどうなのでしょう。20世紀に使いものにならなくなつた仕組みや器を早く改修（撤去？）しなければ、私達の暮らしは良くなりそうもありません。市民主体の社会実現に向けてまだまだ多くの課題が残されていると言えましょう。

ご承知のように、現在私どもが管理運営を受託している「仙台市市民活動サポートセンター」の整備に当たっては、公設市民館という画期的な方式を実現させましたが、宮城県でも新たな試みが実現されようとしています。

県では旧県立図書館の一階を改修して「みやぎNPOプラザ」を整備中ですが、その整備検討委員会に加わった委員が、自主的にワーキンググループを編成して、県と協議しながら管理運営方式の検討を進めています。全県のNPOが地域にいながら利用できる「みやぎNPO情報ネット」、NPOにかかわる研究成果を提供する「地域NPO学会」、ハンディキャプトやNPOの自立の実験場を用意する「市民ショップ研究会」、地域ブロックの支援システムとネットワーキングを構築する「地域NPO連携研究会」などが、4月のオープンを目指し検討中です。

この「公設パートナーシップ営」の実現により、宮城のNPO促進にもう一歩弾みをつけることになるものと期待しています。こちらの方にも皆様のご支援、ご協力を頂きたいと思います。

これらを含めて本年もよろしくお願ひいたします。

せんだい・みやぎNPOセンター 理事 山田 晴義

内容

21世紀を「NPOの世紀」に！、サンフランシスコNPO視察記
部会報告、宮城県地元企業のNPO意識調査報告書
思い出パレット年間ベスト3、永田町・国會議員会館デビュー、NPO法人
の税制支援措置実現のための寄付YES！99人委員会、NPO優遇税制
河北新報にNPOコーナー、2001年1月～2月の講座案内、本、
事務局活動報告、会員の方へ、みんな編集後記 ほか

当センター代表理事3氏による、現場からの分析・提案

21世紀を「NPOの世紀」に！

■進展するNPOと企業の連携

代表理事 大滝 精一

皆様、明けましておめでとうございます。

21世紀が「NPOの世紀」になりますよう、微力ではあります、努力していく所存です。宜しくお願ひ致します。

さて、2001年はこれまでにも増して、NPOの真価が問われる年になりそうです。NPO法人の数は、既に全国で3000を越え増加していますが、2001年は量的だけでなく、質的にもNPOの存在がテストされる年になりそうです。

また、NPO活動の持続性・継続性の問題との関わりの中では、NPOと企業との本格的連携が急速に進展することも予想されます。両者の連携は、それぞれの組織の置かれた現状から、よく説明できるように思われます。

NPOにとって、自身の活動を継続していくためには、資金をはじめとする資源をいかに開発するのかが、大きな課題になっていることは言うまでもありません。これまで、NPOと企業の関係というと、とかく資金の問題のみに关心が集中してきましたが、企業の有するマンパワーとスキル、さらには物的な資源もNPOにとって極めて重要な資源であることが、認知されるようになってきました。NPO側の企画力やマネジメント能力を向上させる多様な資源と能力をどのように開発していくのかが、いま問われているのでは

ないでしょうか。

他方で企業の側も、現在、NPOのさまざまな力を必要としているようです。新規のビジネス・アイデアや顧客開拓にとって、NPOや市民活動団体の存在が、企業にとってますます重要になりつつあります。また、企業社会の狭い枠組みや視点に風穴をあけるためにも、NPOの力は無視できない存在になりつつあります。

両者のアカウンタビリティ（説明責任）をきちんと遂行しながら、双方にとってメリットのある関係をつくり出していくことが非常に重要になっています。2001年はそのために実現性のあるプロジェクトを発進させていくことが、私たちの目標であると考えています。

■NPOと行政の協働・全国の事例

代表理事 加藤 哲夫

NPO法人が3100を超し、今までと変わったことの一つが、行政とNPOのパートナーシップや協働という掛け声が大きくなつたことであろう。これまで市民参加という言葉は使われてきたが、あたらしい流行語はパートナーシップであり、協働である。ただし、それらの言葉は、正確な定義や社会的認識が定まっておらず、なかには首を傾げたくなるような事例も散見される。行政側もNPO側も経験のないことなの

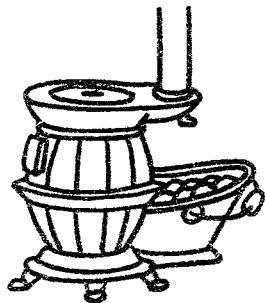
今回で2回目となつた当センターの理事合宿が、12月9・10の2日間開催されました。事前にこの2、3年前、現在、1年後、3年後の「事業と組織と個人の展望」についてのレポートを提出してもらい、来年度以降の事業計画・資金計画を話し合いました。

第1回目は、提出されたレポートを読み比べながら、当センターのミッションの確認と各理事から提出された取り組むべき事業の整理を行いました。その結果、来年度及びこの2、3年後に当センターとして行なうべき事業が明確になりました。第2回目は、前日絞り込まれた事業の実施計画とその担当者、さらに実施するための資源（資金源）について話し合いました。

そして、来年度のキーワードは、「仕事を選べるNPOセンターになる」ということで解散となりました。詳しくは次回のみんでご紹介します。

（紅昌晶子）

報告せんたい・みやぎ
NPOセンター
理事合宿



で混乱はしかたがないが、その関係には今後ますます透明性公開性が求められるようになるだろう。

サポートセンターの事例をみても、公設（官設）公営、公設（官設）民営、公設（官設）市民営、公設（官設）協働運営など様々な形態が模索されている。シュリー・アーンシュタインの「市民参加の8つのしご」の上位の3つは、

6. パートナーシップ（協働）
7. 委任されたパワー
8. 住民によるコントロール

であるが、私はそれを次のように解釈している。

6. パートナーシップ（協働）とは、官民双方が資源を持ちより一つの共通する課題の解決に対等な立場で取り組むこと（実行委員会やプロジェクトによる協働事業の取り組み）。

7. 委任されたパワーとは、専門性その他の理由により本来行政のなすべき仕事をNPO等の市民組織に委託し、一定の権限を任せること（いわゆる業務委託）。

8. 住民のコントロールとは、市民自身の支配下にある公共的な取り組みのことで、その公共性、先駆性に行政が投資するときは補助という形をとる。

たとえば、委託という形態をとっている仙台市市民活動サポートセンターは、行政施設であり、7. の委任されたパワーという段階の市民参加ということになる。最近増えている行政施設の無償提供による施設運営は、6. の協働なのか、7. の委託なのか、8. の補助なのか、実態があいまいなものが多い。運営委員会という形態をとっているところ、単独団体受託のところ、嘱託という臨時職員の形態もあり、どの方法がベターなのか、一概に決定することはできない。ただ安上がりの下請け化だけは避けるべきである。

そのためにはNPOは、団体としてのミッションと戦略をしっかり掲げ、なぜその仕事を引き受けるかを問いつづける必要がある。それと同時にパートナーシ

ップのあり方に関する基準やルールを官民双方が議論をして作り出す努力をすることも求められている。それは市民活動支援の領域から、他の様々な行政施策への市民参加と協働の道を拓くからである。

■環境保全米ネットワークのNPO 法人化を終えて 代表理事 横須賀 和江

環境保全米ネットワークは2000年10月から県内59番目の特定非営利活動法人となった。予算的に不十分で事務局体制も整わず、法人化は先の話としてきたのだが、新JAS法を検討していくうちに、見過ごせない問題点が見えてきた。環境保全米ネットワークの趣旨からいっても有機認証機関になった上で、見直しの機会に成果を反映させる必要がある、という生産農家からの強い要望もあった。

そこで、大海を小船で漕ぎ出す心境でし、NPO法人化に踏み切ったわけだが、ここで新JAS法の問題点を大きく三つに分けて指摘したい。

①面倒な手続きと安くない認定料の代償として、高く売れるという保証はない。②有機認証の基準が国籍に関係なくなったことから、有機農産物の輸入拡大につながる危険性がある。③環境保全の視点が全く欠落している。

環境保全の立場から見れば全国で使われる農薬の総量をどう減らすかが一番大切なことなのに、新JAS法では減農薬・減化学肥料は対象外なのである。更に水系の問題で、自分の田んぼは無農薬・無化学肥料で頑張っている農家ですら対象からはずされかねないのである。

私達の周りだけを見れば、有機農家が増えているよう思ってしまうが、無農薬・無化学肥料の「有機栽培」は1%に満たず、減農薬・減化学肥料の「特別栽培」も3~4%にしか過ぎない現状を知れば驚くに違いない。

環境保全米ネットワークに参加した当初は農薬半分という提案に驚いていた生産農家のひとたちから共に学び交流するうちに無農薬を試みる人達が生まれてきた。

減農薬・減化学肥料栽培を切ってしまうのではなく、重視しつつ有機農業を頂点とした環境保全型農業を広めるための有機認証機関についていくことを目指すつもりである。有形、無形のご支援をお願いしたいと思う。

企業の立場で どうNPOと関わるか

・・サポート資源プロジェクト

理事・針生印刷（株）代表取締役 針生英一
「サンフランシスコNPO視察記」

昨年11月13日から8日間の日程でサンフランシスコのNPOを10カ所ほど視察して参りました。私は企業の立場でどうNPOに関わっていけば良いのかというテーマを持って、今回の視察に臨みました。8日間という短い期間の視察でしたが、私なりに感じたことを述べたいと思います。

NPOの価値を 社会的に認知する市民

アメリカのNPOの方々の話のなかで良くでてくる言葉に「change=変革」という言葉があります。つまり彼らは、世のなかの変革の起爆剤になるのがNPOであるという意識を相当強く持っているということを意味します。NPOは行政も企業もサポートできない

地域の様々なニーズに対応したサービスを提供することがひとつの大きな役割ですが、本来こういう社会であるべきだという自分たちの主張をし続け、より具体的なプランを提案しながら、社会的な制度を作り上げていくための活動をしていかなければならないという大きなミッションを背負っています。その意識がNPOの人たちだけでなく、社会的な認識として根付いていくところがサンフランシスコの凄さです。

■支援を受けたNPOの 義務は「説明責任」

寄付に関する考え方も、日本とは大きく違っていると感じました。もちろん税制も違っているので一概には言えませんが、寄付する側も「●●について熱心に活動しているNPOに寄付をしたい」という明確な意志を持っていると感じました。その寄付の受け皿として財団が全米に4万数千あり、寄付者の意向に沿った金銭的支援をNPOに対して行う仕組みになっています。

様々な支援を受けながら活動しているNPOにとって、一方で非常に大事なことは、「アカウンタビリティ=説明責任」です。受けた支援に対して、その支援によってなし得た活動の概況や成果を支援者ののみならず社会にきちんと伝える

ことは、納得性という意味において新たな支援を引き出すための重要なポイントとなります。そういった意味では、NPOが整理された情報を確実に市民に伝えるという努力を惜しんでいるうちは、内輪の活動の域を出ないといえるでしょう。

時代は確実にオープンな方向へと向かっています。企業も一緒ですが、NPOも自分たちの存在意義が何であるかを常に問うことが重要です。特にこれからは活動の求心力となる理念がないと、うまく物事が進まないでしょう。そして理念を中心において具体的な事業計画を作っていく必要があります。そういった過程も含めて、成果についてもどんどんオープンにしていくことで、自分たちの活動の幅が広がり、周りからの理解や支援の輪が広がることになります。

■日本型NPOの発展形づくりを

風土も価値観も違うアメリカのやり方をそのまま日本に取り入れるのは難しい気がしますが、日本型のNPOの発展形を作るための努力をしていかなければならないと感じています。当社も地域の情報化を推進している企業として、様々な形でNPOの情報発信のお手伝いをしていきたいと考えております。

★おみやげベスト2 青木ユカリ
キャラクター「すしあざらしクッキー」

知っていますか？寿司ねたとアザラシが一緒になった、不思議なキャラクター。サラリーマンやOLさんの間では癒し系キャラとしてひそかなブームに。当センターでは高田氏が発掘。今ではパソコンのスクリーンセーバーにも登場！

産直「りんご」

青森産、長野産、山形産のりんごが続々到着。加藤氏が講演に伺った先や紅邑氏のお知り合いの方から頂戴しました。密入りでとっても美味しいかったです。

産直番外編 出張先・帰省先でGETしてきた逸品より。「緑茶」（水俣産）、「じゃこてん」（松山産）、「たたみいわし」（鎌倉産）、「天然ほや」（青森産）。（ん～、どうも酒の肴が多いなあ）

■皆様からのおみやげは、事務局のゆとり・なごみ度UPに一役かっていただいてます。重ねて御礼申し上げます。

◆今年読んだNLの記事BEST3 布田裕子

第3位 東北建設局釜房ダム管理所発行

「Oh!かまふさ」より

ダムの水位や水質が素人の私にはわからない単位？で説明されているコーナーがあります。でも美しいダムの写真を見ると『おんちゃん』のダムにかける意気込みを感じられ許してしまいます。

第2位 宮城県高校生ネットワーク「SMILE」発行
「SMILE」より

かわいい高校生であるところから老婆心？も手伝って手にとってしまいます。毎月ことわざを取り上げ、類義語や高校生らしい解釈も追記されています。

第1位 スタートライン発行

「スタートラインNEWS」より

「そろそろ結婚したら？」という声も聞かれなくなつた昨今ですが、まだあきらめていない！私には非常に関心があります。第5号に掲載された“離婚ってなに？”を読むとまあ離婚するにも多くのことを考え、えらく骨が折れることができます。結婚する時は、離婚しないように良く見極めてから相手を選ぼうと改めて思ったのでした。うむ。

●出会った人ベスト3 中津涼子

1. 上田氏(仙台市市民活動支援室)
2. 小地沢氏(アーバンネット)
3. 谷川氏(青森大学大学院)

2000年春、サポートセンター(SC)にとて最大ともいえる出会いがありました。同じフロアに同居している上田氏です。よくドーピング(注：栄養ドリンク剤を飲むこと)をしている姿を目撃しますが、私たちと話すときには疲れをみせないさわやかな方です。

まちづくりの活動をしている小地沢氏とは、恩師を囲んでの飲み会で対面しました。SC利用者以外で、市民活動をしている人となかなか接する機会がない私は、さっそく居酒屋で名刺交換。その後も情報を交換する中でよい刺激をうけています。

さようなら
2000年

年間
ベスト3
思い出ペシット

私に人前で市民活動について話す機会を与えてくれた谷川氏。自分を見直したりよい経験をさせてもらったと思っています。人ととの出会い・つながりの大切さを、今あらためて感じています。

◆NPO的あるいは、せんだい・みやぎNPOセンター的アレマな出来事 紅邑晶子

1. NPO税制改正案

NPOの活動を支援する視点からといいながら、ちょっと支援することにはなっていない。改正したっていうアリバイでしかない！

2. サポート資源開発研究会の開催

これは今も進行中ですが、どうやらNPOへの資金提供(基金)や物品提供の仕組みが、誕生しそうです。今まで、財団や行政が主な資金調達先だったNPOにとって、企業と協働でこういう仕組みが実現しそうです。公よりも民間から、変革は起きるのですね。(2月15日にSSKのシンポジウムを開催予定)。

3. ボランティアスタッフの増加

HPを見て、ボランティアセンターで紹介されてと、いろんな方面から当センターを発見してきます。ボランティアスタッフは、当センターの事業をお手伝いいただくだけでなく、わたしたちの活動の理解者としても大切な人たちです。これは、本当にありがたく、嬉しい出来事でした。

国会とか国會議員というのは、なんだか非日常的な存在である。しかし、近頃NPO法に関連する活動をしているうち、だんだん日常的な存在になってきた。そして12月1日、国會議員がさらに日常的になる出来事があった。

この日、わたしは国会のすぐ裏にある国會議員会館（第1、第2衆議院議員会館、参議院議員会館の3ヶ所）を訪れた。その理由は、「NPO支援税制実現のための国会要請行動」に参加するため。前日の「NPO支援税制をつくる1000人決起集会」に参加した翌日のことである。この日の予定は、「NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会」でまとめられた意見書を宮城選出国會議員に手渡しし、宮城のNPOの声を届けるということだった。

初めての議員会館は、スーツ姿の男性ばかり。それに混じって、ちょっと違う雰囲気の人々。そう、国会要請行動参加者のNPOの人々だ。緊張と高揚が入り混じった感じが伝わってくる。きっと、わたしと同じ議員会館

デビューなのだろう。議員会館には、入るために2つの通過点がある。一つは、受け付けで面会証を提出、受付（なぜか女性ばかり）がそれを確認し、議員室に電話をいれ、面会者の紹介をして、確認が取れると受付印を押され、面会証をもらう。続いて、10段ほど階段を上った会館入り口の衛視（これは男性）にそれを渡し、その端っこを三角に破かれたものを受け取って初めて入館できる。

という手続きの後、訪ねてみるとほとんどの議員は不在で、秘書がときには儀礼的に、時に理解ある言葉をかけてくれたりという状況だった。

だんだん「暖簾に腕押し」的気持ちになりかけ、参議院議員会館へ向かったわたしは、幸運にも議員に会うことができ、ようやく、これで今日の行動が実りあるものだとうことができた。

というわけで、国會議員とNPOとの関係を考えることが少しだけ日常化された1日だった。

（紅邑晶子）

世纪末 永田町・国会 議員会館 デビュー

ホームページであの人のチェック！

■他委員会内橋克人、市川繁、永六輔、奥田瑛二、落合恵子、蟹瀬令子、加藤登喜子、倉本聰、郷ひろみ、後藤康男、小室等、佐野力、ジユディ・オング、辛淑玉、竹下恵子、立松和平、土屋公献、田部井淳子、鳥越俊太郎、林雄二郎、ピーターバラカン、フジコ・ヘミングウェイ、堀田力、松本零士、武者小路希公秀、山折哲雄、山下房子、マリ・クリスティーヌほか（敬称略）

当センターの会員として、生島ヒロシさんのメッセージページも入っています。ぜひご覧下さい。（高田篤）

99人委員会の活動に賛同する人は、誰でもメンバーカードになります。詳しくはシリーズ市民活動を支える制度をつくる会のホームページ（<http://c-s.vcom.or.jp/>）でどうぞ。

99人委員会の活動に賛同する人は、誰でもメンバーカードになります。詳しくはシリーズ市民活動を支える制度をつくる会のホームページ（<http://c-s.vcom.or.jp/>）でどうぞ。

この委員会は、企業・行政では提供できない社会サービスを提供するNPOの社会的意義や、そのようなNPO活動を会員や寄付者として支えている一般市民こそが税制優遇措置を求めているのだ、ということを社会に広くアピールすることを目的としています。

現在、NPO法人への税制優遇措置の実現に向けて、各地で様々な取り組みが行われています。そのような取り組みの一環として、様々な分野のNPOで活躍する各界の著名人99人が集まつて、昨年11月に「寄附YES！99人委員会」が結成されました。

NPO法人の税制支援 措置実現のための

**寄附YES！
99人委員会**

NPO法人への税制優遇措置 導入に向けた動き

1998年12月、特定非営利活動促進法（NPO法）が施行され、市民団体が簡単に法人格を取得できる仕組みができました。その後の2年間で3000を越える団体がNPO法人となって活動しています。

しかし、現行のNPO法には、NPO法人への税制優遇措置が盛り込まれていない、という大きな欠点があります。法の審議の過程でもこの点が議論になり、法の附則に法制度について3年以内に検討を行うことが、国会の附帯決議に税制を含めた制度の見直しを2年以内に行なうことが、それぞれ明記されました。

その「2年以内」にあたる昨年11月に向けて、全国のNPO支援センターが結成した「NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会」や、超党派の国會議員からなる「NPO議員連盟」が、この秋全国各地でキャンペーンを展開しました。当センターでも、10月25日に開催された「NPO議員連盟・地方フォーラム in 宮城」への協力や、11月24日の「NPO/NGOのための税・法人制度改革緊急シンポジウム」を主催するなどの活動を行なってきました。

<来年度の税制改革の内容と問題点>

12月14日、自民・公明・保守の与党3党に

よる税制大綱が発表されました。これによると、国税庁に認定されたNPO法人（認定NPO法人）について、来年10月1日から以下のような税制上の措置が導入されることになりました。

- (1) 認定NPO法人に対して寄附をした個人に対する寄付金控除の適用。
- (2) 認定NPO法人に対して法人が支出した寄付金について、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、損金算入を認める（ただし、特定公益増進法人に対する寄付金と同様）。
- (3) 相続財産を寄附した場合、寄附相当分の相続税を非課税とする。

このように、寄付者に対する税制優遇については、一応の実現を見た形となりました。しかし、NPO法人にかかる税金については、みなし寄附金制度の導入が今後の検討事項として残されたのみで実質的な進展がない状況です。

また、認定NPO法人になるための認定基準についても、大変厳しい条件が示されています。この認定基準については、今後早急に修正を求めていく必要があります。税制優遇についての最新の情報は、シーズのホームページ (<http://c-s.vcom.or.jp/>) で見ることができます。より「使える」税制措置を求めて、さらなる運動を展開ていきましょう！。（高田篤）

河北新報に

NPOコーナー誕生

こう、ご期待！

あくまで「NPOの現場の姿を伝える」ことを大切にして編集される紙面は、法制や支援税制のお堅い記事と対照的な、NPOの「いま」を伝える地域密着型のNPO応援記事になっています。全国的にも、こうしたNPO関連の定期的な特集記事はまだ例が少ないとか。ぜひご一読を！

そう語るのは、担当の同社編集局報道部記者の菊池道治さん。

「このページは、なるべく平易なタッチでNPO活動の紹介をしながら、現場が抱えていたり悩みや課題に焦点を当てつつ、その行方を探ることを目指しています。」

東北6県をカバーする広域紙、河北新報に昨年11月からNPOの特集紙面が誕生しました。タイトルは「NPOの輪」。11月から毎週月曜日朝刊に掲載されています。内容は団体紹介のほか、NPOスタッフへのインタビューいや、東北のNPO関係者によるリレートークなどによって構成され、まるごと一面がNPOの話題でぎっしり！

「このページは、なるべく平易なタッチでNPO活動の紹介をしながら、現場が抱えていたり悩みや課題に焦点を当てつつ、その行方を探ることを目指しています。」

● 2001年1月～2月の講座案内 ●
講座を受けて、「あなた」も「組織」もパワーアップ！

盛りだくさん！

下見下見

1月～2月は、当センター主催・関連の講座が盛りだくさん。新世紀の活動を始める今こそ、講座に参加しませんか。当センター理事を中心とした講師陣が得意テーマで皆様をお待ちしています。今すぐお問い合わせを！

■1/11(木)

NPO実践講座「コミュニティビジネス」

講師:大滝精一代表理事・東北大学大学院経済学研究科教授、山田晴義理事・岩手県立大学総合政策学部教授／会場:当センター／会費3000円／開始18:30～

■1/15(月)

センダードサロン「新世紀！センダード新年会」
会場:当センター／会費:500円／開始19:00～／飲み物、食べ物1品持ち寄り式のざっくばらんな交流会です。行政マン、NPO、議員・・・参加予定！

■1/23(火)

NPO実践講座「マーケティング・会員リクルートメント」

講師:紅邑晶子事務局長／会場:当センター／会費:3000円／開始18:30～

■1/26(金)

NPO実践講座「IT革命とNPO」

講師:加藤哲夫代表理事、針生英一理事・針生印刷（株）代表取締役／会場:当センター／会費:3000円／開始18:30～

■2/2(金)-3(土)

介護系NPOパワーアップセミナー

主催:住友生命社会福祉事業団・日本NPOセンター／共催:当センター／会場:SS30住友生命ビル7階会議室／資料代:3000円／講師:行政から介護保険担当者、石川治江氏ケアセンター・やわらぎ事務局長、早瀬昇氏大阪ボランティア協会事務局長、川北秀人氏IHOE代表、山岡義典氏日本NPOセンター事務局長

■2/7(水)-8(木)

NPOマネジメント実践講座

主催:宮城県／会場:榎木文化センター・柴田町榎木／参加費:無料／企画:当センター／協力:白石市民活動フォーラム、古川NPO支援センター運営委員会／昨年の講座と同様、基礎からNPOの運営を学ぶことができます。お問い合わせは当センターまで。

■2/14(水)

NPO実践講座「地域通貨」

講師:加藤哲夫代表理事、新川達郎理事・同志社大学大学院総合政策科学研究科教授／会場:当センター／会費:3000円／開始18:30～

■2/15(水)

サポート資源開発プロジェクト

全国公開シンポジウム

会場:仙台市戦災復興記念館／開始:午後より／今年度企業35社と研究を進めていた「企業からNPOに【金・物・人】が流れる」システムを発表します。全国の先進事例の発表も予定中。

■2/19(月)

センダードサロン「NPO有給スタッフ交流会」

会場:当センター／会費:500円／開始19:00～／NPOの有給スタッフの責任・給料・ボランティアスタッフとのつきあい方は？日頃気になっている事を違う組織の同じ立場のスタッフが話し交流します。

■2/21(水)-22(木)

NPOマネジメント実践講座

主催:宮城県／会場:古川市合同庁舎／参加費:無料／企画:当センター／協力:白石市民活動フォーラム、古川NPO支援センター運営委員会／昨年の講座と同様、基礎からNPOの運営を学ぶことができます。お問い合わせは当センターまで。

センダードサロン～1年を振り返って～ 安國起世

部会報告

昨年は、「NPOができるシリーズ」を3月まで行い、4月からは、より実践的なテーマを設けた。中でも印象的だったテーマが、①「パソコン・インターネットの活用法」そして②「行政との付き合い方」である。

①は、今年のテーマのなかで最も参加者が多く、ニーズの高さを感じた。参加者は全員パソコンを持ち、活発に活動しているNPOばかり。「ホームページをいろんな人にみてもらうにはどうすればいいか」等、組織の中でパソコンをいかに活用できるかという現場の現状や悩みが見られた。ホームページは、あくまでも情報伝達の「手段」であるが、それを作成する過程が、団体の再認識や見直しにつながるのだという興味深い話もあった。

②では、宮城県、仙台市のNPO担当の方に日頃疑問に思っていたことを質問できる貴重な場となった。「行政の事情を知り要望や政策提言を行うことの必要性について考えた。普段は聞けないようなことをざくばらんに話し合えたことは、当サロンの良さの現れだったかもしれない。また、委託や補助金に関するNPOと行政の関係性については、今後、議論を発展させていきたい。

参加者が特定の人々に限られてしまったこと等は、センダードサロンの見直しが必要な点として「今後の課題」となるだろう。21世紀を迎えようとしている今、当サロンの存在意味を改めて認識し、ニーズに則した新たな展開をしていきたいと思う。

PONPO-Netこの1年 中津涼子

6月の第27回をもってCCFサロンは終了し、7月からは「NPOと企業の情報交換・交流の場」「NPOにとっての企業との連携を考える場」として、PONPO-NET（ぽんぽねっと／PO=企業とNPOのネットワークの意）が新たに誕生しました。隔月1回開催、2001年3月までの期間限定、市民活動団体・企業市民を中心にメンバーシップをとるかたちで進めていくことになりました。

初回3回は、実際に企業と連携してきたNPOに事例紹介をお願いしたりお互いがもっている情報の交換もすすめました。と同時に、方向性やアウトプットについて毎回議論になりました。そこで、当NETの特性を活かし、メンバーそれぞれがもっているノウハウでNPOをサポートしていくことに決まりました。同時にマーリングリストも立ち上がり、次回開催までの2カ月の間、メンバーの情報交換・共有に活用していくことになっています。

2001年当NETは残すところ1・3月の2回となりました。11月の結果、CIしたすけっとが取り組んでいる「タウンモビリティを効果的にPRするパンフレット作成」をサポートしていくことになりました。NPOと企業の連携の新たなかたちである当NETにご期待ください。

大活躍のボランティアスタッフ紹介！

12月のボラスタッフ欄もご覧下さい。（遠藤智栄）

当センターの電話対応でお耳にした方もいらっしゃると思いますが、当センターでは、現在約15名の方が定期的に事務局のサポートをしていただいています。今回は、感謝の意味も込めて「ボランティアスタッフ」（一部）を紹介します。

■緒方布美子（人に役に立ちたいと思いつ始めたが、おかげで視野が広がり、パソコンの操作も覚えた。笑いの中には自分が点が多いと感じている。■花多山洋子（暖かい雰囲気の中でスタッフの優しさに触れて。これからも様々な人と出会えれば。）■清水菊男（退職後余暇を社会のために役立てたいと思って始めた。NPO活動の一部を知り学ぶことができた。）■杉本里織（何か社会貢献したいと思い手伝うことを知った。）■清藤真代（いろいろなお手伝いをしたい。）■登坂宗太（NPO税制優遇のプロジェクトに参加することで「口頭活動の一端を経験することができた。）■細野泰志（NPOセンターに来る前は日本国民は現代でもお上の言いなりでは、と感じていたが、スタッフの活発な行動を目のあたりにして驚いたし、嬉しかった。）■本郷正武（大学院での研究上の関心と社会的マイノリティを巡る問題群に興味があることから手伝うよくなつた。）■NPOセンターの書類整理法を参考にしていました。）

当センターの電話対応でお耳にした方もいらっしゃると思いますが、当センターでは、現在約15名の方が定期的に事務局のサポートをしていただけています。今回は、感謝の意味も込めて「ボランティアスタッフ」（一部）を紹介します。

■緒方布美子（人に役に立ちたいと思いつ始めたが、おかげで視野が広がり、パソコンの操作も覚えた。笑いの中には自分が点が多いと感じている。■花多山洋子（暖かい雰囲気の中でスタッフの優しさに触れて。これからも様々な人と出会えれば。）■清水菊男（退職後余暇を社会のために役立てたいと思って始めた。NPO活動の一部を知り学ぶことができた。）■杉本里織（何か社会貢献したいと思い手伝うことを知った。）■清藤真代（いろいろなお手伝いをしたい。）■登坂宗太（NPO税制優遇のプロジェクトに参加することで「口頭活動の一端を経験することができた。）■細野泰志（NPOセンターに来る前は日本国民は現代でもお上の言いなりでは、と感じていたが、スタッフの活発な行動を目のあたりにして驚いたし、嬉しかった。）■本郷正武（大学院での研究上の関心と社会的マイノリティを巡る問題群に興味があることから手伝うよくなつた。）■NPOセンターの書類整理法を参考にしていました。）

配分金をいたしました。

(社福)宮城県共同募金会様より

昨年9月29日付で、平成12年度の共同募金配分金(39万円)をいただき、自己資金を若干充当し下記の物品を購入いたしました。

これらは、介護系NPOパワーアップセミナー開催などの福祉NPOの育成に関わる分野を中心に活用していく予定です。

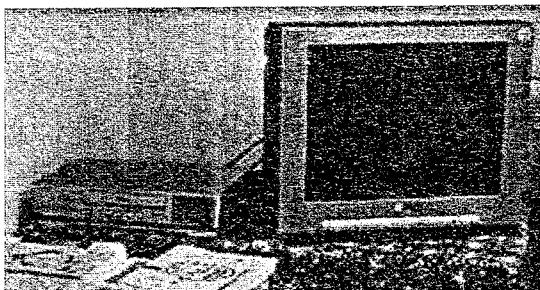
重ねまして、(社福)宮城県共同募金会様に御礼申し上げます。

【 購入物品 】

デジタルカメラ、フロッピーディスクアダプタ、デジタルムービー、アクセサリーキット、ポータブルMD録再機、ビデオデッキ、スキヤナー、インクジェットプリンタ、フォトショップLE、カラーテレビ、三脚

合計 411,789円

デジタルビデオカメラ→
ビデオデッキ↓ テレビ↓



BOOK

希望の国のエクソダス

村上 龍 著

文藝春秋 1,650円(税込み)

この本の舞台は、2001年。この考えに賛成である。から2008年までの日本である。これを読んで私は「予言書」を読んでいるような気がした。

本書は、中学生の集団不登校

が、たいして教育が変わる様子が中心の出来事であるが、その他にも政治、経済、地域通貨、

高齢者問題(介護保険)、ボランティアなど様々な内容が描かれていて。あくまでも小説なのでこの通りに日本が進んでいくはずはないが、本書で描かれていることのひとつくらいは実際に起きても不思議ではないと思う。その中で特に印象に残ったものを取り上げたいと思う。

それはこの話の中心的なことである集団不登校についてである。本書では、パキスタンでのある日本人の少年の言動をきっかけに全国の中学生約80万人が一斉に不登校になる。これは、

私も去年は17歳で高校生である。本年では、パキスタンでのある日本人の少年の言動をきっかけに全国の中学生約80万人が一斉に不登校になる。これは、筆者である村上龍の「今すぐにでもできる教改の方針」の

考である。私はこの本を読み、太田勇樹

考である。私はこの本を読み、太田勇樹

事務局活動報告 (10/20~12/10)

活動
報告

センター・事務局関連

- ・NPO実践講座／主催：当センター/起業コース①「NPOをつくる」(10/23 紅邑・青木)起業コース②「NPO法の概要と法人手続き、組織をつくるとは?」(11/8 紅邑・青木) 経営コース④「NPOの組織運営力をアップする3つのポイント」講師：川北秀人氏(11/25 安国・菅野・青木)起業コース③「法人登記等諸手続」(12/7 加藤・青木、安国、遊佐)
- ・市民活動サポートセンター休館日・スタッフ研修(10/25・11/29)
- ・健康診断(10/30)
- ・市民活動サポートセンター全体会議(11/1・8・15・22・12/6)
- ・みんみん発送作業(11/1)
- ・PONPO NET(11/9 紅邑・中津)
- ・サポート資源開拓プロジェクト
WG<基金・寄付・資金>(11/1・12/4) <人材・ノウハウ>(11/6・12/8) <物品・場所>(11/6・12/6) <IT・情報>(11/10・12/5) 海外視察(11/13-20 加藤・針生・紅邑) 第7回研究会(11/22 加藤・紅邑・遠藤・高田) 事務局打ち合わせ(11/28 加藤・紅邑・高田・青木)
- ・事業運営会議(11/8 加藤・紅邑・遠藤・高田・小浜・青木、11/22 加藤・紅邑・遠藤・高田・中津・青木)
- ・特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター理事会/第17回(11/22 第18回<理事合宿>)(12/9-10 大滝・加藤・川村・木村・黒澤・針生・紅邑)
- ・事務局 内部研修(11/26)

NPO関連・他

- ・NPOマネジメント実践講座／主催：愛媛県(10/21 加藤)
- ・ボランティア研究会講演／主催：今治市ボラ団体連絡協議会(10/22加藤)
- ・NPO議員連盟 地方フォーラム in 宮城／主催：NPO議員連盟／協力：シーズ=市民活動を支える制度をつくる会、仙台ターミナルビル株式会社 ホテルメトロボリタン仙台、当センター、(10/25)
- ・事業実現化検討委員会／仙台市中心市街地活性化推進機構事業実現化検討委員会市中心市街地(第1回10/25・第2回11/24 紅邑)
- ・市民活動フォーラムせんだい2000/イベント(10/27 松尾)
団体企画「ワークショップ活用法」(10/29 黒澤・松尾・田中・遠藤)
- ・月刊「NPOマネジメント」合宿(10/28-29 加藤・紅邑)
- ・ファシリテーター養成研修／日本財團(11/1 加藤)
- ・カナンNPO研究会(11/2 紅邑)
- ・「地域にやさしいワークショップ」／青森県、あおもりNPOサポートセンター(11/3 紅邑)
- ・第1回 IT教師養成講座／主催：DCs地域情報化推進センター(11/3-5 加藤・遠藤)
- ・NPOマネジメント連続ワークショップ／主催：暮らしの企画舎 特定非営利活動法人茨城NPOセンター・コモンズ(11/6・11/30 加藤)
- ・ファシリテーター養成講座／主催：市民ネットワーク・千葉県(11/7 加藤)
- ・連合宮城栗原地区会議学習会講演(11/7 紅邑)
- ・介護系NPOパワーアップセミナー<第2シリーズ>/主催：住友生命社会福祉事業団、日本NPOセンター、共催：当センター(11/10-11)
- ・地域のNPO支援センタースタッフ特別研修／主催：日本NPOセンター、東京ボランティア・市民活動センター(11/17-18 青木)
- ・(財)宮城県地域振興センター センター内ワークショップ「NPO基礎知識」(11/20 青木・工藤)
- ・NPO/NGOのための税・法人制度改革緊急シンポジウム(11/24紅邑・黒澤・高田)
- ・角田まちづくりプロデューサー養成講座第3回(11/24 加藤・遠藤・青木)
- ・デラウエアネット(11/27 紅邑)
- ・企画力UP講座 企画アドバイス/みやぎボランティア総合センター(11/28 加藤)
- ・評価システム研究会/共同研究：NPO研修・情報センター、I I H O E 、コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」、まちづくり情報センターかながわ、地球環境パートナーシップオフィス、東京ボランティア・市民活動センター、当センター

(11/29 加藤・紅邑)

- ・少子高齢社会専門委員会/東北経済連合会(11/29 紅邑)
- ・DCs委員会/デジタルコミュニケーションズ地域情報化推進センター(11/30 加藤)
DCsワーキンググループ(12/8 加藤)
- ・NPO支援税制に関する国会要請行動/NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会(11/30 紅邑)
- ・社員研修会/東北電力株式会社新潟支店(11/30-12/1 紅邑)
- ・介護系NPOパワーアップセミナー<広島>/主催：住友生命社会福祉事業団、日本NPOセンター 共催：ひろしまNPOセンター(12/2-3 加藤)
- ・クリーン仙台推進委員会ワークショップ(12/7 加藤)
- ・まちづくり研究会(12/7 紅邑)

自治体関連

- ・石狩支庁、市町村職員協働政策研究会講演/主催：北海道石狩支庁地域政策部(10/20 加藤)
- ・仙台市教育ビジョン第7回検討委員会/仙台市教育委員会(10/25 加藤)
- ・東北ブロック勤労青少年指導者実務能力向上研修会/宮城県(10/26 紅邑)
- ・環境学習プランワークショップ/仙台市(10/27・11/18 加藤・紅邑・遠藤)
- ・平成12年度管内出張所長・建設監督官会議/建設省東北地方建設局(11/2加藤)
- ・大規模事業評価委員会/宮城県(11/7 紅邑)
- ・仙台市促進条例公聴会(11/8 高田)
- ・第2回「パートナーシップ県政運営指針」検討委員会/青森県企画部(11/9加藤)
- ・市民活動サポートセンター市民活動入門講座/主催：仙台市/企画・運営：当センター「What's市民活動?」(11/11)「もっと聞きたい!市民活動」(11/18)
- ・平成12年度管理監督者研修/運輸省(11/21加藤)
- ・第1回「集落整備構想作成方針検討研修会」/宮城県土地改良事業団連合会(11/27 加藤)
- ・アレマ会議/市・環境局農業管理課(11/27 紅邑)
- ・NPOセミナー/福島県生活環境部(11/29 加藤・遠藤)
- ・すくすく市民プロデューサー養成講座 第3回/主催：宮城県 教育委員会生涯学習課青少年育成班(12/3 紅邑・田中)
- ・「第1回「集落整備構想作成方針検討研修会」/宮城県土地改良事業団連合会(12/4-6 加藤)

取材・ヒアリング・相談

- ・宮城ペルー協会 上田さん来訪(10/20 高田)
- ・綾沢市役所 視察(10/26)
- ・仙台市建設局 来訪(11/7 紅邑)
- ・さいたまNPOセンター 西川さん、長谷川さん、宮崎さん、吉田さん視察(11/9 紅邑)
- ・シニアゴルフ協会 細谷さん相談(11/14 青木)
- ・ICAS 氏家さん来訪(11/15 遠藤)
- ・足利市役所 視察(11/21 紅邑)
- ・参与連帯 パクさん視察(11/21 高田)
- ・柴田町 佐山さん相談(11/22 青木)
- ・企画力UP講座 企画アドバイス(11/28 加藤)
- ・日本総合研究所 ヒアリング(11/28 加藤)
- ・東北放送 取材(11/28 加藤)
- ・エボック仙台 佐藤さん相談(11/29 青木)
- ・塩竈体育協会 成澤さん来訪(11/29 青木)
- ・自治大学研修生 ヒアリング(12/1 高田)
- ・北九州市議会議員 三宅さん来訪(12/1 青木)
- ・東北大學 長谷川ゼミ学生(12/4 高田)
- ・わらび座 三浦さん相談(12/5 遠藤)
- ・東北福祉大学 小沢さん相談(12/6 紅邑、高田)
- ・平成12年度北会津地方公民館連絡協議会主事部会議員研修会 ヒアリング(12/8 紅邑・青木)

サポート・ご協力 ありがとうございます(敬称略)

●平成12年度会員 (振込順、10/28～12/10)

(継続)氏家清一、MIYAGI子どもネットワーク、三浦義勝

●事務局ボランティアスタッフ (随時来訪 10/20～12/10)

浅野敏明さん、泉田儀明さん、太田勇樹さん、緒方布美子さん、花多山洋子さん、佐藤聰子さん、清水菊男さん、杉本里織さん、鈴木格さん、鈴木武さん、千葉信さん、登坂宗太さん、内藤志保さん、細野泰志さん、本郷正武さん(五十音順)

●企業協力 東北エニコム(PONPO-NETの会議室を無料提供、サポート資源開発プロジェクトの会議室を無料提供)、岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)、宮城労働金庫(サポート資源開発プロジェクトの会議室を無料提供)

物品あれこれ 大募集!

●皆さんのまわりで使わなくなった下記の物品はありませんか。ご連絡、お待ちしております。

- 書棚(大・中・小それぞれ) 資料の増加に伴い、保存する棚が無くなっています。
- 食器棚 来客の増加でカップや湯飲みを置く大きめの棚が欲しいところです。
- 事務机・事務用椅子 ボランティアスタッフが利用する机が不足しています。椅子と机がセットだとうれしさ2倍です。
- 折りたたみ椅子 当センターで会議や講座を開く機会が増えてきました。丈夫で軽い椅子はありませんか。
- パソコンデスク 中古パソコンをいただく予定があり、これに伴い置くための机を探しています。
- お歳暮各種 お茶・コーヒー・湯飲み茶碗など、すぐにも欲しい品々です。

催事のご案内

今号の催事のご案内は、8ページにまとめてご案内させていただいております。

ご参加、お待ちしております。

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
E-mail minmin@jca.ax.apc.org
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~minminHP/>

大好評!ホームページ!更新中!

会員の方へ

■入会申込書の書き換えのお願い

当センターでは昨年の法人化に伴い、会員の皆様のニーズを知りサービスに生かしていくために、入会申込書の書き換えをお願いしております。入会申込み書が同封されましたら、書き込みの上、FAXか郵送でお送り下さい。

■E-mailを教えて下さい。

様々な情報の受発信で、今後E-mailを活用したいと考えています。アドレスをお持ちの方は「minmin@jca.ax.apc.org」までメールをいただけますでしょうか。個別にニーズにあった情報をお送りできるようにしたいと考えています。

■FAX番号を教えて下さい。

大切な情報を素早く会員の方に手軽に送るために「FAXみんみん」をお送りしています。前はお持ちでなかった方、FAXみんみんが届いていない方、ぜひお知らせください。

■会費の納入のお願い

当センターの年度は7月～6月までになっております。まだ2000年度の会費を納めて戴いてない方、ぜひ、継続の手続きをお願いいたします。ご不明な点がありましたら事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



みんみん編集後記

ときどき、連絡をとりたいと思っている人から電話がかかって来たり、偶然出会つたりする。携帯電話やインターネットで連絡するより、こういう説明のつかない能力を電

気が使えないときのために鍛えたいものだ。(紅邑) ■今年の正月も仙台居残りが決定。去年はめでたく(?)「仙台初売」デビューを飾り、不況と言いながらも無目的に買い物しまくる人々に圧倒されたものでしたが、今年は……??白銀崎に初日の出でも見に行こうかなあ。(工藤) ■友人の家に行ったら、なんとペットが「6匹+魚」もいた。出張で家を留守にしても大丈夫な種類を飼っているとのこと。犬好きの私としては、犬の散歩ボランティアとかやってみたい気もするなあ。一声おかけ下さい!(遠藤)

●当センターの年末年始のお休みは、12月29日から1月3日までです。みんみん編集部にご迷惑をお寄せ下さい! 新世紀もよろしくお願ひいたします。